

第 1 回 新・富山県ものづくり産業未来戦略会議（H30. 7. 23） 意見交換概要

視点 1：生産性向上、高付加価値化

＜IoT、ビッグデータ等＞

- フィジカル（現実）空間から、サイバー空間の情報集積（ビッグデータ）は自然には進まない。基本的にここまではやり遂げるといったことを整理すべき。
- フィジカルなデータ、例えば生産現場の様々なデータを持ち、それをつなげていくことがポイント。同業他社だけでなく、異業種までつなげていければよい。
- IoT は 1 社ではできず、様々な会社が結びつくことが大事。例えば大学も参画すれば、それを契機に異業種が結びつき、産学官連携が進む。
- 個社のデータだけでは、AI 解析するにあたって新たな展開に至らない。他社のデータも含めて AI 解析すれば、新機能や新機軸などの新たな展開の可能性がある。
- 何をデータ化すれば生産性向上、新たな価値創造ができるのか、各社連携しながら、まずはやってみるというスタイルが大事。デジタル化、新しい価値創造の観点からも、新戦略には IoT 導入促進を打ち出すべき。
- IoT は最初、漠然としたイメージから始まり、具体的に可能かどうかを議論していくものである。
- 医学の視点では、一人一人の容態などビッグデータだけでは解決できないこともある。

＜高付加価値化＞

- 建設機械メーカーでは、ドローンによる地形撮影やそれに基づく図面化など、ハードを作るだけでなく、それに付随したサービスを加えた一連の商品を開発している。商品の方向性を考えるにあたっては、コトづくりの視点がなければ厳しい。
- 今後の方向性を考えるにあたって、ハードだけでなく、ソフト、サービスもつけるという考えは大事である。

＜デザインの活用＞

- いろいろな分野にデザインを取り入れることは良い。

視点2：人材の確保と育成

- 人材育成は極めて重要であり、その必要性を強く訴える必要がある。人材不足の時代のため、県内大学から、ものづくり企業へ人材を振り向けることも考えていただきたい。
- 人材の確保と育成について、取組みが総花的なため、協調すべきところ、個別に取り組むべきところを整理して、メリハリをつけられどうか。小・中・高校段階からのものづくり人材の育成のほか、女性の活用、UIJターンの促進と結びつけた人材育成が大事。
- ビッグデータを取り扱うことができる人材が不足しており、国では人材開発の動きがある。

視点3：産業基盤の強化

<オープンイノベーション>

- オープンイノベーションについて、競合と協調の境は明確ではなく、兼ね合いが難しい。場合によっては、効果が発揮されず、弊害も生じる。各社との調整、方向付けはどうあるべきか。
- 競合会社とすれば、自社ベースの考えがあるが、ワンランク上げないと各社生き残れないという危機感を共有していくことが重要。最初にどこまでを協調領域とするかという議論を踏まえて設計するのが基本。
- 取得したデータも協調領域、競争領域があり、スタート時はクローズとしても、段階的にオープンに広げていくことも考えればよい。
- オープンイノベーションに取り組んだ経験からは、社長、現場のトップ等と議論し、1年かけて競合各社をまとめ、協調領域と競合領域を設定したが、各社からアイデアが出ないことから、方向性を示し、関係者をコーディネートする者の役割が大変重要である。
- オープンイノベーションが進むかどうかは、人に依存する。それぞれの企業にバランス感覚に優れた人がいれば発展していく。
- オープンイノベーションや、コネクティッドは、テーマありきと考えている。自ら市場をつくるということになれば、テーマ次第では、異業種でもチャンスが数多くある。IoTを行うにしてもグループ経営では、複数社で議論を進めていかなければならず、オープンイノベーションのような形となっていく。
- 全く異業種が結びつく新しい市場ができ、そこに商機があるのは国レベルでも議論されている。

- 先進的に取り組まないと生き残れない時代であるが、業界によっては、オープンイノベーションをしないことが生き残る道で、技術の公開は抵抗を感じる。
- 核となる技術はクローズに該当する。人材育成はオープンでできることもあり、オープンイノベーションは必ずしも技術だけではない。
- 水平型は、情報をオープンにするのは難しいが、垂直型であれば、自社の不得意なところを、得意な企業や研究者に任せられるということで取り組みやすい。ただ、成果をどこまでオープンにするかは課題である。
- 異業種にも取り組んでいるが、どの企業と結びつけばよいか分からない。県で、各企業の情報を集めたプロフィールが整備されるとありがたい。
- 今は変革のスピードが上がっており、デジタルデータ、オープンイノベーション、人材も何歩も進んだ形で表れてくると思われる。こうしたことを踏まえ、新戦略に結びつけることを考えていく必要がある。

<産学官連携>

- 大学、産業界、官がコンソーシアムを組むのは難しいと実感。ビッグデータを取得し、フィードバックをすることは大事だが、産学官でデータをどのように管理するのか、それが出来ないと前に進まない。データ処理も、ホストをどこに置き、どの機関につなぐのかなど詰めるところが多い。
- 各社、各機関が収集したデータをどのように集めるかは国でも議論の途中であり、全体を設計している段階である。

<成長分野>

- 医薬品業界はここ5年でトレンドが変わり、例えば、薬価は下がり、バイオが進んできた。バイオは、費用が嵩み、専門人材が必要。
- 航空機は、将来の成長産業で、県内企業が相当の技術をもって参入し、数値的な観点だけでは評価できない。今後、さらに伸ばすには、更なるコストダウン、生産性向上が必要。IoT、AI、ロボットがなければコストダウンはできない。県内企業の航空機分野への参入はステージが上がっており、県の支援を検討いただきたい。

その他

- 新幹線の開業を活かして、観光客とものづくりを結びつけることを一つの方向性として考えればどうか。